

キャリア教育モデルプログラム「中学生だっぴ」導入に関する
岡山市内中学校キャリア教育状況の聞き取り調査 報告書

岡山市市民協働推進ニーズ調査事業

2016年3月

NPO 法人だっぴ

調査およびとりまとめ_河原彩花

目次

1、はじめに

- 1-1 調査について
- 1-2 調査方法
- 1-3 調査中学校一覧

2、調査結果について

- 2-1 現行のキャリア教育について
 - 2-1-1 職場体験とは
 - 2-1-2 教員から見た職場体験
- 2-2 現行のキャリア教育での課題
 - 2-2-1 中学生時代に必要だと思うこと
 - 2-2-2 教員が感じているキャリア教育の課題とニーズ

3、「中学生だっぴ」について

- 3-1 中学生だっぴとは
- 3-2 中学生だっぴ実施前後アンケート結果
- 3-3 教員のプログラム実施における要望と不安

4、まとめ

- 4-1 担当者考察
- 4-2 今後の展開について

1. はじめに

文部科学省、中学校キャリア教育の手引きより

現在の子どもたちは、育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化など、子どもたち自身の将来のとらえ方に大きな変化をもたらしている。また、子どもたちは、自分の将来を考える際にイメージする大人のモデルが見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。

子どもたちが将来自立した社会人となるための基盤をつくるためには、学校の努力だけではなく、子どもたちにかかわる家庭や地域が学校と連携して、同じ目標に向かう協力体制を築くことが不可欠である。

このような背景を受け、岡山市では平成 27 年度岡山市協働モデル事業により、中学生を対象にしたキャリア教育授業「中学生だっぴ」を NPO 法人だっぴと岡山市教育委員会との協働で実施してきた。

今回の『キャリア教育モデルプログラム「中学生だっぴ」導入に関する岡山市内中学校キャリア教育状況の聞き取り調査』は、中学生だっぴ事業の採択にあたり、市内各中学校におけるキャリア教育の現状把握に努め、より汎用性の高いプログラムの構築と効果の検証につなげることを条件として付与され、以下 2 点を目的に実施した。

- ① 岡山市の中学生の現状や取り巻く環境を知り、市内の中学校に「広げていくための課題を明らかにする」こと
- ② 課題を踏まえて 学校ごとの環境や課題などのニーズに適した「プログラムを作成する」こと

現在、中学校で展開されているキャリア教育の現状と教職員のニーズ調査をすることで、市民協働推進モデル事業の採択条件を満たすとともに、中学生だっぴのプログラムや実施体制へ結果を反映し 効果的かつ持続的な事業を考案する。また本プログラムの周知を広げ、次年度以降さらに多くの中学校で「中学生だっぴ」を展開していくことを目指してゆく。

本調査にご協力いただいた、各学校の担当教員方をはじめ 岡山市教育委員会のみなさまにこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

協働推進ニーズ調査事業担当
NPO 法人だっぴ 河原彩花

1-2 調査方法

岡山市教育委員会より市立中学校に聞き取り調査依頼を行い、NPO 法人だっぴの調査スタッフが各中学校を訪問して聞き取り形式で調査。聞き取り調査は、事前に以下のような共通項目を設定し、予め伝えておいた項目に沿って 30～90 分程度で行った。

【聞き取り調査項目】

- 1、職場体験活動を行う際の、事前・事後の取り組みについて
- 2、現職の教員が、現行のキャリア教育の中でどのような必要性を感じている点
- 3、地域や PTA と連携をした取り組みについて
- 4、だっぴ授業の開催を希望する場合、学校が取り組みやすい規模・時間・時期・体制など

なお本調査では、生徒に日々接する教職員の実感している雰囲気や課題を丁寧に汲み取ることに重点を置き、選択式のアンケートなどは実施していない。

調査期間および対象は以下の通りである。

聞き取り調査期間：2016 年 1 月 5 日～3 月 1 日

対象：岡山市立中学校 3 6 校 ※「調査中学校一覧」参照 P5

各学校より、役職・年数などランダムに 1～2 名が回答

担当：NPO 法人だっぴ 河原彩花

◇報告書調査結果の集計方法について

今回は、共通の項目や選択肢からの回答を集計したものではなく、口頭での聞き取りを元に集計した。

グラフの数値は、問いに対しての回答(明確な発言)があった場合、1 校を「1」とカウントした。

問いに対して複数の回答があった場合、上記の基準で各項目ごとにカウントを行った。

聞き取り調査は、回答状況や所要時間、回答者の年齢や役職に相違があり、一律に学校の状況や教員の意見を示すものではないことを前述しておく。

1-3 調査中学校一覧

調査した中学校は以下の通りである。

※平成27年1月時点

	校名	ふりがな	住所	電話番号	生徒数
1	足守	あしもり	北区大井 360 番地	086-295-0250	151
2	岡輝	こうき	北区岡町 12 番 17 号	086-224-0358	310
3	中山	ちゅうざん	北区辛川市場 159 番地	086-284-0038	583
4	石井	いしい	北区下伊福上町 10 番 9 号	086-252-1165	418
5	高松	たかまつ	北区高松原古才 30 番地	086-287-2052	499
6	建部	たけべ	北区建部町建部上 734 番地	086-722-0517	120
7	御南	みなん	北区田中 581 番地	086-241-3357	880
8	京山	きょうやま	北区津島京町一丁目 7 番 1 号	086-254-2797	841
9	岡北	こうぼく	北区津島東一丁目 1 番 1 号	086-252-3256	459
10	吉備	きび	北区庭瀬 103 番地	086-293-0003	899
11	桑田	くわだ	北区東島田町二丁目 3 番 35 号	086-224-5836	696
12	御津	みつ	北区御津宇垣 1227 番地	086-724-0541	212
13	岡山後楽館	おかやまこうらくかん	北区南方一丁目 3 番 15 号	086-226-7100	223
14	香和	こうわ	北区吉宗 590 番地	086-294-2009	457
15	竜操	りゅうそう	中区赤田 188 番地 1	086-272-9696	1002
16	操山	みさおやま	中区国富三丁目 11 番 1 号	086-272-2248	595
17	高島	たかしま	中区賞田 190 番地 1	086-275-2882	547
18	操南	そうなん	中区藤崎 130 番地 2	086-277-7281	783
19	東山	ひがしやま	中区御幸町 13 番 3 号	086-272-2168	360
20	富山	とみやま	中区海吉 1462 番地 5	086-277-2812	338
21	旭東	きょくとう	東区大多羅町 276 番地	086-942-2644	948
22	上南	じょうなん	東区金田 722 番地	086-948-3403	162
23	山南	さんなん	東区北幸田 509 番地 1	086-946-8102	223
24	西大寺	さいだいじ	東区西大寺上一丁目 20 番 60 号	086-942-3818	579
25	瀬戸	せと	東区瀬戸町瀬戸 444 番地	086-952-0027	385
26	上道	じょうとう	東区南古都 714 番地	086-297-2004	440
27	光南台	こうなんだい	南区飽浦 390 番地	086-267-2046	167
28	灘崎	なださき	南区片岡 770 番地	086-362-0073	416
29	妹尾	せのお	南区妹尾 1212 番地	086-282-1144	312
30	福南	ふくなん	南区築港ひかり町 10 番 35 号	086-264-5490	488
31	芳田	よしだ	南区当新田 468 番地 1	086-241-0533	525
32	興除	こうじょ	南区中畦 589 番地 4	086-298-2034	422
33	藤田	ふじた	南区藤田 400 番地	086-296-2126	336
34	芳泉	ほうせん	南区芳泉三丁目 2 番 1 号	086-264-9081	939
35	福浜	ふくはま	南区三浜町二丁目 3 番 26 号	086-262-1178	789
36	福田	ふくだ	南区山田 544 番地 3	086-282-0370	394

2、調査結果

2-1 現行のキャリア教育について

現在、岡山市立中学校では、2年時に「職場体験活動」を実施している。
今回の調査は、現行のキャリア教育の中の「職場体験活動」に焦点をあて調査した。

職場体験の位置づけと教育的意義を以下にまとめる。(文部科学省中学校職場体験ガイドより)

2-1-1 職場体験とは

職場体験とは・・・

生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動

《キャリア発達段階》

小学校 進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期

中学校 現実的探索と暫定的選択の時期

高等学校 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期

- ・ 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- ・ 興味・関心等に基づく勤労観、職業観の形成
- ・ 進路計画の立案と暫定的選択

《職場体験の教育的意義》

- ・ 望ましい勤労観、職業観の育成
- ・ 学ぶこと、働くことの意義の理解、及びその関連性の把握
- ・ 啓発的経験と進路意識の伸長
- ・ 職業生活、社会生活に必要な知識、技術・技能の習得への理解や関心
- ・ 社会の構成員として共に生きる心を養い、社会奉仕の精神の涵養 等

※参照「文部科学省 中学校職場体験ガイド」

2-1-2 教員から見た職場体験

今回の聞き取りを行って、教員が職場体験をどのように位置づけ、実施しているかをまとめた。回答者は、担任・主任・校長など様々な役職。また、回答は代表的な回答ではなく主観的な回答をお願いした。以下は、多くみられた回答を項目にまとめ記述する。

・ 社会で経験する貴重な機会

「中学生が学校の外に出て、社会で様々な体験をする貴重な機会」との声が多く、学校の中では経験できない 社会的なマナーや普段出会わない人とのコミュニケーションを直接経験する機会として重要視されている

・ 進路意識への影響

“目指す進路への理解が深まった生徒がいた”と回答がある一方、“変化を感じられない生徒がいた”との回答も同数程度みられた。

「いい機会にはちがいないが、進路への考え方の変化はあまりみられない」との声も多い。効果の感じられた生徒は、体験前から興味や目指す目標があり かつ希望に沿った体験先に行けた生徒が多いよう。効果の感じられない生徒は、体験先に興味が持てなかった場合が多いとの声もある。

・ 事前事後の取り組み

各学校で、人数や雰囲気に応じて工夫しながら、適切な機会が提供されるように努力している。工夫しながら職場体験の前後の取り組みを行っているため、所要時間数も異なる。前年の実施方法を参考にしながら、適した機会になるよう努力している。

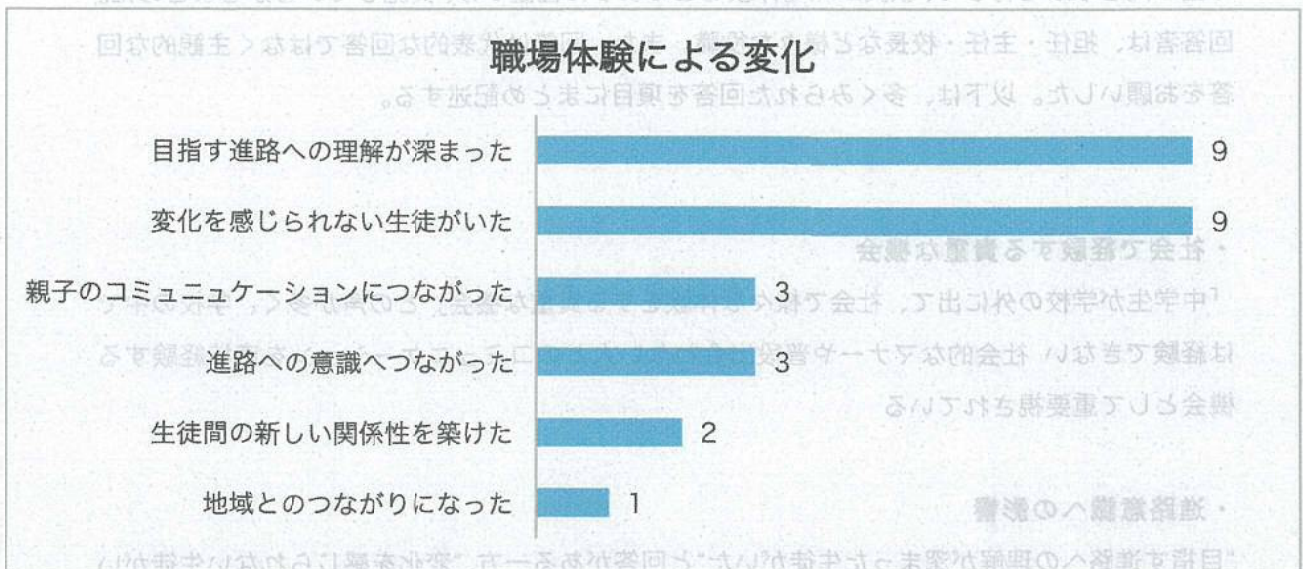
・ 受け入れ事業所について

必要事業所数は、生徒数により変動するため、学校により度合いは異なるが 担当教員を中心に学年団で協力しながら必要数の確保に奔走している。いくつかの学校では、保護者や地域住民と協力して事業所確保を行うなど工夫がみられた。

体験場所振り分け前に、生徒に事前アンケートを行い、体験を希望する職種や分野を調査する学校が多い。生徒の希望にどこまで応えられるかは、学区や生徒数により異なる。

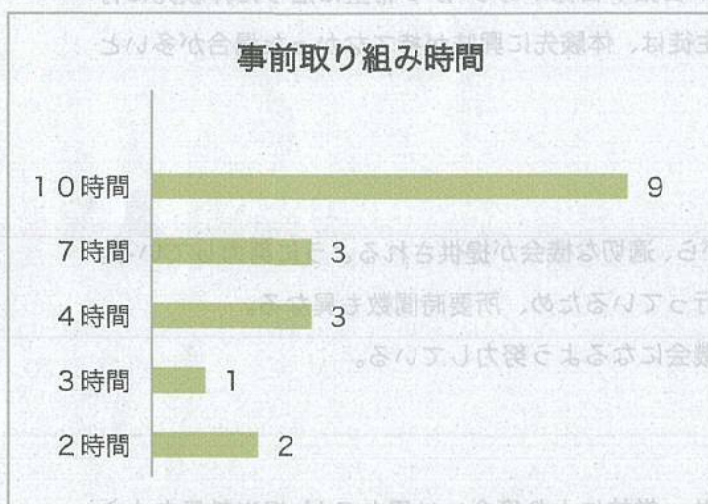
○職業体験による変化

学校での職場体験実後のアンケートは実施していないため、回答者の主観による効果・変化を質問した。



※職場体験について回答した32校中で、変化・効果についての質問の回答を集計

○実施前の取り組み 平均 7,1 時間



実施されている取り組み

- ・ マナー講習会
- ・ 講演会
(外部、地域の大人、卒業生)
- ・ 職業調べ(親族、図書館、ネット)
- ・ ビデオ鑑賞
- ・ 決意表明文(手紙、ポスター、名刺)

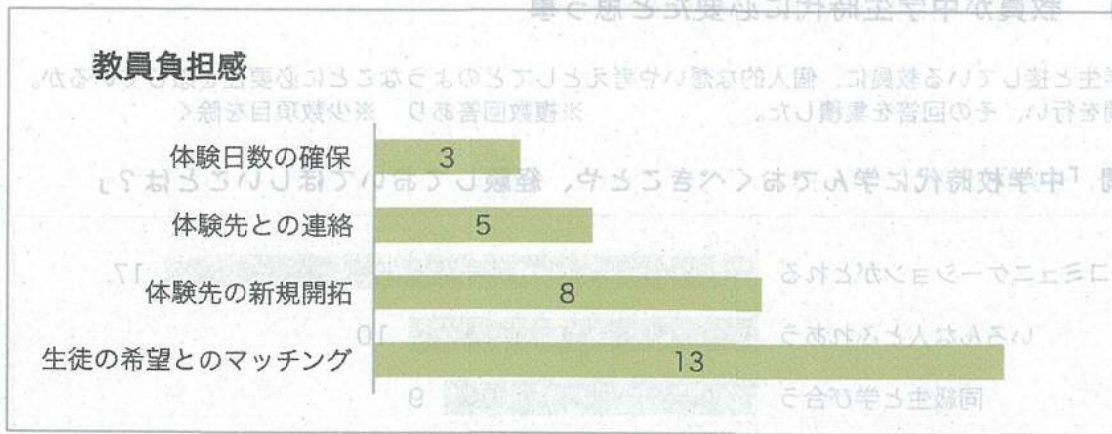
○実施後の取り組み 平均 4,3 時間



実施されている取り組み

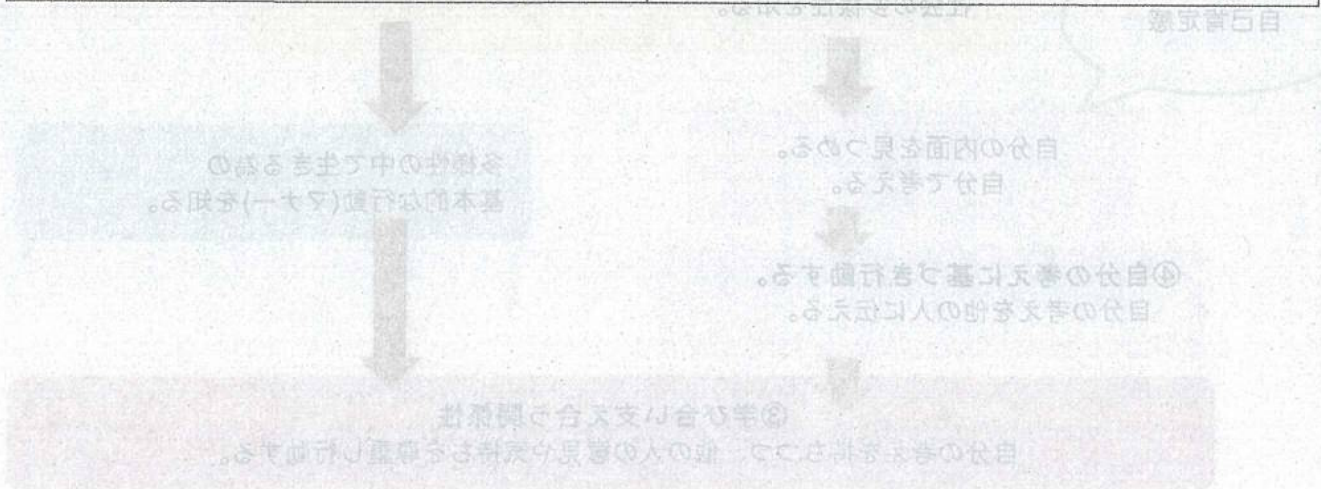
- ・ お礼の手紙
- ・ まとめ(個人、グループ)
- ・ 掲示
- ・ 発表(発表会、プレゼン)
- ・ 進路調べ

○教員の負担感



○職場体験を実施して、教員が感じることのまとめ

	よかった点	課題
中学生	<ul style="list-style-type: none"> 学校外ではできない経験ができた “仕事”の意義に触れられた 将来のイメージを増すことができた 役に立つ経験や達成感を経験できた クラスの中で新しい関係性ができた 	<ul style="list-style-type: none"> 体験ではなく、見学になってしまう 希望する事業所ではない場合、興味がわかずモチベーションが上がらない 怒られるなど“厳しさ”を感じる経験ができてにくい 働く事がまだ先の生徒は、進路と関連して考えにくい
受け入れ事業所	<ul style="list-style-type: none"> 福祉系の事業所では喜ばれる 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所と丁寧な打ち合わせができない 発達障害などへの理解がされないことがある
教員		<ul style="list-style-type: none"> 実施と前後の取組み時間数を確保することが難しい 事業所への依頼・連絡が負担 やり方が決まっている学校があり、教員が疑問を感じても変更が難しい場合がある



2-2 現行のキャリア教育での課題

2-2-1 教員が中学生時代に必要だと思う事

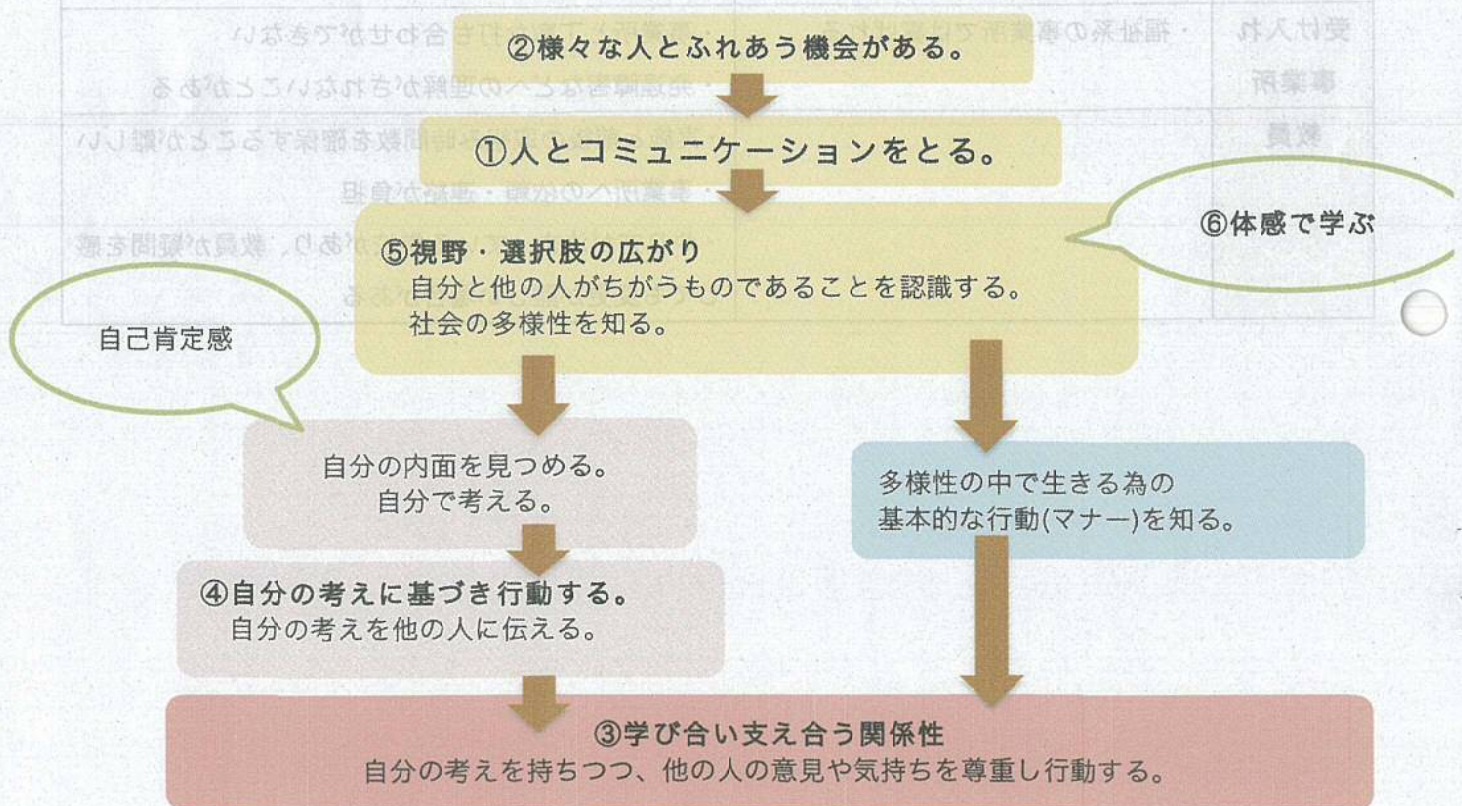
実際に中学生と接している教員に、個人的な想いや考えとしてどのようなことに必要性を感じているか。以下の質問を行い、その回答を集積した。 ※複数回答あり ※少数項目を除く

質問「中学校時代に学んでおくべきことや、経験しておいてほしいことは？」



※項目は、ヒアリングの中で出てきたキーワードにより作成。

上記の結果にみられるように、「人との関わり方」を必要だと感じる回答が多かった。上記の項目を整理すると以下のような流れが見えてくる。 ※番号は回答者の多い順番



2-2-2 教員が感じているキャリア教育の課題とニーズ

2-1-1 のような必要を感じている学び・経験を中学生に提供するために、どのような課題とニーズがあるかを以下の表にまとめた。

	課題		ニーズ
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・学校以外での体験的な活動の不足 ・職業の選択肢を知らない ・将来の夢や目標がある生徒は少ないと感じている 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な働き方を知ってほしい ・夢や目標を持ってほしい ・体験を通して学ぶ機会がほしい
教員	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しく生徒と向き合う時間がとれない ・いい機会を提供したいが、学外の人や団体を知る機会が少ない ・教員の学校以外の社会経験が少ない 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・負担が少なく効果的な方法を知りたい ・学外の人や団体とつなげてくれる人や機会がほしい ・教員も視野を広げる機会がほしい
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で将来のことを話す機会が少ない ・仕事が忙しく平日の行事へ参加しにくい ・個人の家庭環境などが把握できない ・親同士の関係性が子どもの関係性に影響している 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で将来のことを話す機会がほしい ・参加しやすい日程 ・生徒をより理解し、ひとりひとりの環境に適した対応をしたい ・親同士の関係性をよくしたい
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・赴任してきたばかりだと、つながりがない ・関わり方がわからない地域の人がある ・地域との接点が減り、地元を離れてしまう 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる機会がほしい ・地域の人に関わる機会がほしい ・地元の事を知る機会がほしい

3 中学生だっぴについて

3-1 中学生だっぴとは

中学生×若者×おとなの三者が、フラットな場で共通のテーマについて語り合う。

義務教育が終了し、高校進学・就職など 初めて自分の意志で進路選択をする中学生。しかし、学校や家以外でおとなに関わる機会が少なく、限られた選択肢しか知らない。自分のことも知らない。自分のことを大切にできず、他者の意見を優先し、自分“とりあえず”自分の人生を選択してしまう。

だっぴの場で、様々な生き方や価値観に出会うことで どんな社会に生きているのかを知り視野が広がる。

自分の話を聞いてもらえることで、自分のことを大切にしようと思える裏打ちが増える。

自分らしい選択を重ねることで、ひとりひとりの日常が豊かになることを目指している。

【だっぴトーク（プログラム）の流れ】

7～8名程度のグループが円になり着席します。※グループ数は人数により変更

全体の司会が、だっぴのルール説明と進行を行い 話しやすい空気づくりと進行を行う。

各グループにキャスト(若者)が入り、参加者のリラックスできる空気をつくると共に、会話の広がりや深まりをサポートする。

司会の出題するトークテーマに、全員が自分なりの答えをスケッチブックに書き 一斉にオープン。

グループごとに、約10～15分間 自由に話を聞いたり話したりする。

《スケジュール》 ※中学生だっぴでは、約2時間のプログラムを実施している。

オープニング 流れや場のルールを伝える

アイスブレイク 簡単なゲームをして、緊張をほぐす

トーク 自己紹介(15分)、テーマ 各10～15分×2～3問

トーク 同上

クロージング 落とし込みと

3-2 中学生だっぴ実施成果

中学生だっぴの実施記録、成果をまとめる。

3-2-1 平成27年度中学生だっぴ参加人数

実施履歴	合計2校	美作市立作東中学校	岡山市立岡山中央中学校	
参加者	中学生	143	46	97
	大人	63	15	48
	大学生	66	24	52
	計	206	61	145
満足度	99%	100%	98%	

満足度：実施後アンケートで、「参加してよかったですか」の質問に「とてもよかった」「よかった」と回答した中学生と大人の割合

3-2-2 中学生の変化と感想

○プログラム参加前後アンケート

「中学生だっぴ」実施の前後に、参加した中学生にアンケートを行いプログラム前後の変化を計った。

平成27年度中学生だっぴ アンケート[中学生]		作東中学校		中央中学校		計	
		46名		92名		138名	
		前	後	前	後	前	後
Q1:大人になるのが楽しみだ。 または、働くことが楽しみだ。	とてもそう思う	9	36	22	70	31	106
	まあそう思う	19	10	55	20	74	30
	あまりそう思わない	15	0	14	2	29	2
	全くそう思わない	3	0	1	0	4	0
Q2:私は自分のことを 大切にしようと思う。	とてもそう思う	16	35	37	74	53	109
	まあそう思う	28	11	51	18	79	29
	あまりそう思わない	1	0	3	0	4	0
	全くそう思わない	1	0	1	0	2	0
Q3:私は自分の将来に 希望を持てる。	とてもそう思う	11	29	14	61	25	90
	まあそう思う	20	16	55	29	75	45
	あまりそう思わない	11	1	22	2	33	3
	全くそう思わない	4	0	1	0	5	0
Q4:私は多くの人の 役に立ちたい	とてもそう思う	23	41	35	75	58	116
	まあそう思う	17	5	53	17	70	22
	あまりそう思わない	5	0	4	0	9	0
	全くそう思わない	1	0	0	0	1	0
Q5:自分の行動により、 自分の周囲の状況を 少し変えられるかもしれない	とてもそう思う	1	20	10	50	11	70
	まあそう思う	19	23	46	40	65	63
	あまりそう思わない	17	0	34	2	51	2
	全くそう思わない	6	0	2	0	8	0
Q6:社会をよりよくするため、 私は社会や社会の問題に 関わっていききたい	とてもそう思う	9	30	10	46	19	76
	まあそう思う	22	10	56	43	78	53
	あまりそう思わない	11	2	22	3	33	5
	全くそう思わない	1	0	4	0	5	0
Q7:自分の未来は自分で動けば 変えられると思う	とてもそう思う	12	30	33	73	45	103
	まあそう思う	14	12	42	19	56	31
	あまりそう思わない	14	1	15	0	29	1
	全くそう思わない	3	0	2	0	5	0
Q8:自分のなりたい 理想像や将来の夢がある	とてもそう思う	14	24	35	55	49	79
	まあそう思う	15	16	33	33	48	49
	あまりそう思わない	9	1	20	3	29	4
	全くそう思わない	5	2	4	1	9	3
Q9:日常の過ごし方を 変えようと思っている	とてもそう思う	7	31	13	60	20	91
	まあそう思う	17	10	54	30	71	40
	あまりそう思わない	17	2	22	1	39	3
	全くそう思わない	2	0	3	1	5	1
Q10:私は、私の住んでいる 地域(市町村)が好きだ	とてもそう思う	14	27	26	48	40	75
	まあそう思う	21	16	46	37	67	53
	あまりそう思わない	4	0	15	2	19	2
	全くそう思わない	4	0	5	5	9	5

Q11:より納得した進路選択 (生き方)をするためにできることに 取り組んでみたいと思う	とてもそう思う	14	37	35	72	49	109
	まあそう思う	25	6	47	18	72	24
	あまりそう思わない	3	0	8	1	11	1
	全くそう思わない	1	0	2	1	3	1
Q12:両親や先生に生き方や 進路選択について 相談したいと思う	とてもそう思う	5	25	28	56	33	81
	まあそう思う	20	17	42	31	62	48
	あまりそう思わない	18	1	18	3	36	4
	全くそう思わない	0	0	4	2	4	2
Q13:両親や先生以外の 大人の人に進路選択について 相談したいと思う	とてもそう思う	9	29	15	44	24	73
	まあそう思う	21	14	37	45	58	59
	あまりそう思わない	9	0	35	1	44	1
	全くそう思わない	4	0	5	2	9	2

○中学生感想

- ・自分と違う考えの人と沢山意見を交換できた。
- ・今後、どのように生きていくかを自分の中で決められたような気がした。
- ・自分の考えをととても話しやすかったです。人の意見をきけて考えることができました。
- ・とっても楽しかった。大学生はもっと勉強ばかりのかたい人と思っていたけど話やすいし
とっても心に響くようないい話がきけたから
- ・とてもいい授業が出来て、進路に向けての参考になったので良かったです。
- ・すごく自分の思ったことを言えたり、その人の気持ちがわかった。
- ・楽しかったし、大人すごいと思った。
- ・大人の方々や大学生の方々が真剣に話を聞いて切れたのが楽しかった。
- ・いろいろなトークテーマで話してみて考えが違うことを改めて実感できたのでよかったです。
- ・とても楽しかったです。とても自信がついて、これからも頑張っていこうと思いました。
- ・最初は少し不安で緊張していた大学生のほうがやさしくして下さったので本当に楽しい時間になりました。
- ・無いような考えを他の人は持っていて、いろいろな意見を聞くことができたからすごく楽しかったです。
- ・中学生だけで過ごすことが多いから今回の体験で、人生の先輩方の話を聞けて、色々勉強になった。
- ・とにかくめっちゃ良かったです！何もかもが新しい発見で良かった。
- ・最初は初めて会う人と話すので緊張しましたが意外といろんな人の面白い意味が聞けてとても楽しかったです。

3-3 ニーズに対するプログラムの有用性

「2-2-2 教員が感じている課題とニーズ」の項目を、中学生だっぴを実施した場合期待される効果・変化と照らし合わせた。

	ニーズ		中学生だっぴの期待される効果・変化
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な働き方を知ってほしい ・夢や目標を持ってほしい ・体験を通して学ぶ機会がほしい 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な働き方・日常をもつ大人に出会うことができる。生徒の興味や感心のなかった職種でも、プログラムを通して深く知ることによって視野や可能性に気付く機会となる。 ・大半の生徒にとって働くイメージは遠いが、大学生世代は身近な存在であり自己とつなげて考えやすい。すこし先の未来を生きる先輩が、どのような目標や悩みを持っているかを知る事で、考える機会につながる可能性がある。 ・普段出会わない人と SNS やネットではなく、直接語り合い笑い合う機会。自分の内面を人に話すのは勇気がいることだが、安心して話せる・聞いてもらえることが自身や信頼へ結びついてゆく。 だっぴでは、経験を語るトークテーマを設けており、経験談を聞くことで経験代謝が起こり体験したかのように学ぶことができる。
教員	<ul style="list-style-type: none"> ・負担が少なく効果的な方法を知りたい ・学外の人や団体とつなげてくれる人や機会がほしい ・教員も視野を広げる機会がほしい 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・開催校教員が開催後、「負担が少なく、効果が大きい」との感想があった。行政や当法人をはじめ、様々な主体が連携して行うことで、無理なく開催できる体制の実現が可能。 ・プログラムに地域内外の様々な人・世代が参加することで、情報交換ができる。 ・プログラムに教員が参加することができる。勤務校以外での実施に参加受け入れをすることも可能。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で将来のことを話す機会がほしい ・参加しやすい日程 ・生徒をより理解しひとりひとりの環境に適した対応をしたい ・親同士の関係性をよくしたい 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに参加し、普段とちがう体験をすることで「家にかえって親子の会話のきっかけになった」との報告がある。また、親子では冷静に話せないことも似た世代や立場などの他者と話す事で、受け止められる。 ・土曜授業など、平日以外の日程での開催が可能 ・教員はプログラム中の見学ができるので、普段の関係や会話ではない生徒の顔を見、話を聞くことができる。また、参加した保護者の話も聞くことができる。 ・大人同士の交流の機会となる。同じ時間を経験し、相互理解が深まったり会話のきっかけになるなど、関係性の一助となる可能性も。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる機会がほしい ・地域の人に関わる機会がほしい ・地元の事を知る機会がほしい 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内外の人が学校に集う機会となる。他の取り組みなどと合わせることで、各学校で必要な関係をつくる機会にもなり得る。 ・地域の人が生徒と関わる機会になり、地域での学校への感心に応えたり顔の見える安心な地域づくりの一助になり得る可能性がある。 ・地域の人から中学生や保護者が、地元でのエピソードを聞いたり活動を知ることができる。また、地域外からの参加により、気付かなかった地域の魅力に気付く機会にもなり得る。

3-4 中学生だっぴ実施における配慮と対応方法

中学生だっぴを実施する際に、教員が「配慮が必要」だと感じる点を整理した。

それにどう対応していくかの対応案を並べて記載する。

配慮が必要なこと	対応
<p>教員の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 打ち合わせや準備などの時間的負担 ・ 作業や声かけなどの物理的負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムをパッケージ化し、効率化を行う。 マニュアル作成、必要な資料提供 ・ 様々な主体と協力。環境に適した役割分担を行う。 地域や市民団体などとの協力体制をつくる
<p>時間の調整・確保が難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の取り組みがあるので時間がとれない ・ 保護者が参加しやすい日程 <p>《実施可能性のある時間》 土曜授業(年3回/6月11月1月) 総合学習(70H)、道徳(35H)、特別授業(35H)、 社会(2年105H/3年140H) など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本プログラムを単発でみるのではなく、前後の取り組みと関連づけながら実施することがより効果的。バランスをみて取り組みの取捨選択を行う。 ・ 学校や教育委員会と調整し、土日での開催など保護者や地域の大人、若者が参加しやすい日程での実施を検討したい。
<p>協力者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PTA や地域の協力が得られ、人数が集まるか。 ・ 大学生の質と数は確保できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力者をつくる。 地域や保護者などに協力を依頼し、主体的に募集活動を行ってもらうなど。必要に応じて行政と協力し支援する。 ・ 法人で定期的に説明会を開催し、データベース化する。大学連携も視野に入れ、毎年定数を確保できるように準備。学校ごとのリーダーを大学生自身が引き継いでいくことで 参加しやすい体制をつくる。

4、まとめ

4-1 担当者考察

以上の調査結果より、「中学生だっぴ」は岡山市のニーズに適応し、効果を期待できると思われる。

自分の暮らしている地域で働く大人や地元大学に通う大学生など、普段出会わない人と直接出合い対話することで自分の周りの社会を知るきっかけとなるのではないだろうか。多くの中学生が高校に進学する現在、どんな働き方・生き方をしたいかを想像する事は“今”とかけ離れており想像しにくい。しかし、「身近にいる人の仕事やそれに対する想い」「少し先を生きる大学生世代の生活や心情」など、中学生の日常から地続きの人々との出合いや会話は、中学生が自己の将来をイメージしやすく社会的なつながりを感じるほどよい機会なのではないだろうか。

また本プログラムは、学校教育に偏っていた“教育”を地域に広げる可能性があり、様々な人や団体が連携し未来を担う子どもたちを守り・育てる社会をつくっていく機会となりえる。様々な年代や立場の人が出会うことで、情報交換やネットワーク構築のきっかけとなり、また現状に適した対応を協力して行うことができるのではないだろうか。調査を行い印象的なことは、「教員も保護者も子ども達もそれぞれの立場で精一杯がんばっている」こと。子どもたちを取り巻く大人も自己肯定感があがることで、自己犠牲ではなく自分も大切にしながら、進む方法を模索し偏りの少ない持続可能な方法を検討できる可能性も感じている。

心は目には見えないから、気付く事が難しい。言葉にすることは、勇気が必要。「中学生だっぴ」という、うまく話せなくても失敗しても受け止めてもらえる場で、「勇気を出して人と関わる」練習ができる。だれかの言葉や存在に出会い心を交わすことは、自分や周りを信じて前向きに進む強さとなり、これからの一人ひとりの日常や社会を支える力となるのではないだろうか。

4-2 今後の展開について

平成28年度も引き続き、岡山市民協働モデル事業としてNPO法人だっぴと岡山市教育委員会と協働で取り組む見込み。岡山市約18000人(H28)の中学生に届けていくためには、実施体制の強化と人員の確保が必要となる。まず「人員の確保」については、岡山県内大学との連携を考えている。授業や実習の連携により、一定数の人員確保を行う。大学生にとっては、地域との関わりや学校外のつながりができるなどメリットも多い。大学生のインターンなどの受け入れ体制を整えることも考慮し準備したい。「実施体制」については、プログラムを実施できる人材を育てる必要がある。地域により状況が多様なため、地域ごとに適した対応が必要となる。有志がプログラム実施に結びつくように、講座などのフォローアップ体制も必要だと思われる。また、実施に必要な経費面の確保と若者と地元企業との接点をつくるためにも、地元企業の参加・支援の体制も形作っていきたい。